

地域医療連携だより

Vol.221
R3.11

長浜赤十字病院 地域医療連携課
〒526-8585 滋賀県長浜市宮前町14-7
TEL 0749-68-3314
FAX 0749-68-3315



地域医療支援病院・救命救急センター
地域周産期母子医療センター
地域災害医療センター
滋賀県地域がん診療連携支援病院
基幹原子力災害拠点病院

晩秋の候、貴院におかれましてはますますご清栄のことと存じます。
平素より当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「甲状腺外来」のご紹介（毎週水曜日午後）



私たち糖尿病・内分泌内科で診療しているもっとも多い疾患は糖尿病であり、甲状腺疾患がそれに続きます。当科では腫瘍性病変を除くすべての甲状腺疾患に対応しております。バセドウ病、慢性甲状腺炎（橋本病）、無痛性甲状腺炎、亜急性甲状腺炎、ヨード過剰摂取による甲状腺機能障害といったものが多いです。

近年では不妊治療中あるいは妊娠中の方に対して厳格なTSHコントロールが求められるようになり、拳児希望の女性や妊婦さんを診る機会が著しく増加しています。加えて悪性腫瘍に対して使用される免疫チェックポイント阻害薬により甲状腺機能障害が頻発することが明らかになり、実際に当科でも診療する場面が増えてきました。

滋賀県でバセドウ病診療をする際に避けることができない注意点として、アイソトープ療法を実施できる医療機関が県内に存在しないことが挙げられます（ちなみにアイソトープ療法を実施できる施設がないのは、全国で滋賀県と新潟県の2つだけです）。コロナ禍のために県外への移動がしづらくなったこともあり、結果的にバセドウ病に対して抗甲状腺薬（メルカゾール、プロパジール）を用いた薬物療法を施行する患者さんが増加しています。

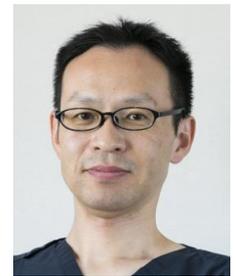
抗甲状腺薬は無顆粒球症をはじめとした重篤な副作用を生じる危険性があります。そのため開始初期にはこまめな採血が必須であり、さらには催奇形性の観点から妊娠初期にはメルカゾールは避けるように勧告されていることなどから、バセドウ病患者さんは糖尿病や他の甲状腺疾患よりも頻回の受診を必要とする場合が少なくありません。

そのために当科では毎週水曜日午後甲状腺疾患に対する診療に特化した「甲状腺外来」を設けています。もちろん他の糖尿病・内分泌内科外来でも甲状腺疾患には対応可能です。これらの外来枠を総動員して数多くの患者さんにきめ細やかに対応することを心がけています。特に「甲状腺外来」ではできるだけ地域の先生方そして患者さんをお待たせすることなく診療を始めたいと考えています。「甲状腺外来」の予約がいっぱいの場合でも、急がれる場合にはご相談いただけますと幸いです。

滋賀県では隣接県と比較して圧倒的に甲状腺専門医が不足しており、現時点では滋賀全県で5人、湖北地域は私だけです。ちなみに岐阜県は17人、京都府は18人、大阪府には51人の甲状腺専門医が在籍しています。微力ではありますが、江川副院長をはじめとする当科医師、放射線科（甲状腺診療には良質なエコーが欠かせません）、耳鼻咽喉科・頭頸部外科（バセドウ病の手術はもちろん、エコーで悪性腫瘍が見つかることも珍しくありません）、さらに産婦人科（地域周産期母子医療センター）と密接に連携して甲状腺疾患の診療にあたっております。

甲状腺疾患の有病率は非常に高く、たとえば慢性甲状腺炎（橋本病）は成人女性の10人に1人が罹患しているとも言われています。さらには上述の不妊や妊娠、免疫チェックポイント阻害薬による甲状腺機能障害患者さんに遭遇する場面は今後ますます増加していくものと予想されています。

はじめて発見された甲状腺機能異常の診断をつける、抗甲状腺薬の副作用が出現しやすい時期や妊娠中、あるいはなかなか甲状腺機能が安定しない患者さんの甲状腺機能コントロールを行って安定させる。以上を当科で担当し、安定した後では地域の先生にフォローアップを御願います。そのような流れができればありがたいと考えております。



糖尿病・内分泌内科部副部長
(兼)検査部長
(兼)救急科部副部長
児玉 憲一

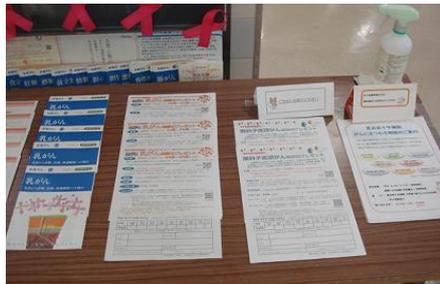
ピンクリボン週間



10月は『乳がんの早期発見・早期判断・早期治療の大切さを伝える活動』ピンクリボン運動の強化月間です。

当院もピンクリボン運動強化週間として2021年10月11日（月）～15日（金）に外来患者さんに向けてデジタルサイネージでの発信、乳がんに関するポスターや資料展示コーナーの設置、さらに外来職員を中心に手作りのピンクリボンを配布してつけていただき、啓発活動を行いました。

生涯に乳がんを患う女性は11人に1人と推定されています。しかし、早期に発見し適切な治療をすれば90%以上の方が治癒すると言われています。今回の啓発活動で、一人でも多くの方が自分の年代にあったピンクリボン習慣を心がけ、定期的な検診受診につながることを願っています。



『ブレスト・アウェアネス』

自分の乳房の状態に日頃から関心を持ち、乳房を意識して生活すること。以下の4項目を実践して乳がんの早期発見につなげましょう(^_^)v

- ①自分の乳房の状態を知る：見て・触って・感じる、セルフチェックを！
- ②気をつけなければいけない乳房の変化を知る！
(しこり・皮膚の凹み・血性の乳頭分泌物がないかetc・・・)
- ③乳房の変化を自覚したらすぐに医療機関受診を！
- ④40歳になったら定期的に乳がん検診を受ける

出典：日本乳癌学会編「2019年度版患者さんのための乳がん診療ガイドライン」

当院では月曜日（午前・午後）、火曜日（午後）、木曜日（午後）に乳腺外来を開設しております。診察が必要な患者さんがおられましたらご紹介ください。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2021 滋賀医科大学



10/16（土）・17日（日）にリレー・フォー・ライフ・ジャパン2021滋賀医科大学がYouTubeにて開催され、ルミナリエセレモニーやウォーキングアプリ「minpo」を使用したセルフウォークリレーが行われました。

セルフウォークリレーとは日本対がん協会が提案する新しい形の活動であり、実施期間内の参加者の歩数をがん相談ホットラインの運営費として、日本対がん協会に寄付される仕組みとなっています。約65,000歩で1人の相談を支援できます。

全体で122名の参加があり、当院からは個人やチームで30名の職員が参加しました。9/11（日）～10/10（日）までの1ヶ月間で合計 6,876,347歩歩き、約105名の相談を支援することができました。



消化器カンファレンス

※日本医師会生涯教育 1.5単位 CC:15
日 時：11月4日(木) 18時30分～
場 所：2号館5階 大会議室南

